



おぐに議会だより

第24号

平成28年8月10日

○平成28年6月定例会

○議長不信任案を可決

○町政を問う(一般質問)

議長不信任案を可決!

14日に行われた6月定例会の開会直後、高村議員から議長不信任案の動議が提出され、審議が行われた。

不信任案の提案理由は、「熊本地震後、ただちに議員を集めて意見を聞くことがなく対応が悪い。」などの理由だった。

対象の渡邊議長は退席し、代わりに穴井副議長が議事を行った。採決方法は、無記名の投票となり、1名の議員は投票を棄権。直ちに投票が行われ、賛成5票、反対4票、棄権1（議長役の穴井副議長は投票に参加せず）となり議長不信任案は可決された。

その後、会議は再開され、渡邊議長は「地震対応に追われていた町職員に負担を掛けたくなかった。決議は真摯に受け止めたい」と述べ、議長を続投することを表明した。

発議

○議長不信任案

賛成多数により可決

専決事項の承認について

○専決第1号 小国町税条例等の一部改正

全員挙手により承認

○専決第2号 小国町国民健康保険税条例の一部改正

挙手多数により承認

○専決第3号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の一部改正

全員挙手により承認

条例の改正

○小国町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

…小規模保育事業所の設備基準を改正するもの

全員挙手により可決

○小国町教職員住宅管理条例の一部改正…帯田住宅を教職員住宅から削除するもの

全員挙手により可決

人権擁護委員の推薦

人権擁護委員の候補者として下記の方を推薦するもの

賛成多数により適任

推薦 再 原山清美さん(宮原 任期は、平成31年9月30日まで)

採決結果一覧表

(条例などの名称は一部短縮して記載しています。)

	議案番号	事件名	採決結果	穴井 帝史	大塚 英博	北里 勝義	高村 祝次	児玉 智博	時松 唯一	穴見 まち子	松崎 俊一	熊谷 博行	時松 昭弘	松本 明雄
専決承認・条例・補正予算・人事案件など	発 議	議長不信任決議案	可決	賛成多数 (賛成5、反対4、棄権1)										
	承認第2号	小国町税条例等の一部改正(専決)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	承認第3号	小国町国民健康保険税条例の一部改正(専決)	承認	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
	承認第4号	行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の一部改正(専決)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第33号	小国町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第34号	小国町教職員住宅管理条例一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第35号	小国町一般会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第36号	小国町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第37号	小国町簡易水道特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議案第38号	小国町農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	発 議 第1号	ファームロードの県道移管及び連絡道町道坂下宇土谷線の県による改良整備についての意見書	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	発 委 第1号	熊本地震からの復旧・復興に係る意見書の提出	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

補正予算

○一般会計補正予算

5億4千6百4拾7万円を追加し、総額53億9百4拾7万円とするもの

■主な内容

4月に発生した熊本地震災害対策分として4億5千万円強、地震以外の分9千5百万円強の補正

庁舎関係、福祉避難所など、災害廃棄物処理、家屋解体、道路修繕、住宅修繕、被災者住宅補修支援、農地・農業施設・林業用施設・土木施設・観光施設・学校施設・社会教育施設・情報施設の災害復旧

公立病院低炭素化負担金、臨時福祉給付金、低炭素化補助など



対岸線ガケ崩れ



隣保館での定例会

○国保特別会計補正予算

システム改修16万8千円

○簡水特別会計補正予算

杖立水道災害復旧工事

3千万円強ほか

○農集排特別会計補正予算

修繕 百8拾9万円

発議

ファームロード(町道西里田原線)の県道移管及び連絡道町道坂下宇土谷線の県による改良整備についての意見書

発委

平成28年熊本地震からの復旧・復興に係る意見書の提出



熊本地震の反省点を 今後へ

熊谷 博行

岡町は、今回の地震をどのように捉えたか。また、その反省点は。

【町長】このような地震があるとは想定をしていなかった。日頃から準備や備えが、いかに大事かというのを改めて痛感した。今後、小国町防災計画の見直し等も行う中で、その都度この地震について分析、反省をして行く。

岡 今回の地震で私は、消防団を大変評価した。その反面、地域自主防災組織の活動が鈍かったと思うが、町としての感想は。

【総務課長】消防団の活動というのは、非常に貢献度が大きかったと考えている。今回の震災を教訓にし、消防団と自主防災組織がどのように連携を行い、色んな活動に貢献できるかを確認して行く。

岡 福祉課への質問です。
今回の地震で町内の介護施設への安否確認の遅れがあったようだが、福祉課には、災害時のマニュアルは存在しないのか。

【福祉課長】連絡漏れがあったのは事実だ。反省すべき点と捉えて

いる。また、福祉施設等に対するマニュアルは作成していない。今後、作成する。

岡 今回の地震により保育園の休園時に保護者からの保育要望はなかったのか。保育園ではどのような受け入れ態勢を心がけたか。

【保育園長】保護者からの保育要望はなかった。

保育をするにあたっては、保護者の仕事の都合とか、色んな要望があるところ、受け入れ態勢については万全を期していく。



被災した旧下城小職員住宅



グラントカバープランツで 農家の負担軽減を

児玉 智博

岡 稲作で、除草作業は最も体力や手間、時間を要する大変な作業だ。高齢化で耕作を止める理由の一つと言えらると思う。また、町道沿線の草刈りにも毎年1千万円を超える負担が発生している。

このことから、提案したいのが豊後大野市で取り組まれているグラントカバープランツ（地被植物）だ。豊後大野ではグラントカバープランツを行うための協議会を農家が立ち上げ、地被植物の種子を吹き付ける機械を市の助成を受けて導入し、施工している。上手くいけば、草刈りは冬場に1回行えば良くなるという。小国町でも技術者を養成し、農地や町道沿線にグラントカバープランツを施工していければ、耕作放棄地の拡大を抑制や町道の除草費用の節約に繋げる事が出来るとは思わないか。

【建設課長】今後、費用対効果がどれ程のものか特殊な作業員が必要かなど調べた上で、参考とし

て伺っておく。

【産業課長】農地の管理を行っている中山間の集落協定のリーダー会議を年2回開いているが、そのような要望が出た事がないので検討する段階に至っていない。しかし、近くにそういう事例があれば、視察に行くなどして、集落協定の会議の中でも話題にしてみても良いかと思う。



畦畔に植えられたグラントカバープランツ



観光客の激減に対する 対応は

穴井 帝史

【情報課長】 今回の熊本地震では、小国町において、甚大な被害は無かったものの、主要国道の寸断等により観光客の激減が大きな問題となっている。

郡内他町村においては、プレミアム商品券の発行など素早い対応を行っているところもあるが、小国町において何らかの支援の考えは。

【情報課長】 小国町としては、国の補正で180億円の九州旅行プランの助成が創設されており、これをうまく活用し、復興キャンペーン等でPR等を行いたい。閩国の補正180億円については、7月から9月が70%、10月から12月が50%と認識している。しかし、この取り扱いが旅行会社委託と聞いているが、手数料も取られ支払いは2ヶ月後という話もある。これでは運転資金が回らないと思うが、町の考えは。【情報課長】 たしかに2ヶ月後と聞いている。宿泊業も困ると思うので県にも要望を上げている。



福岡からのバス



う回路の道路案内版

閩出来れば町の利子補給制度が現在設備に対しての運用と限定されているが、運転資金にも摘要する等、迅速な対応を求める。



熊本地震からの復興

松崎 俊一

閩4月16日、避難所となった小国ドームには7百人、ほかの避難所や駐車場などを合わせると2千人以上の方々が眠れない夜を過ごした。熊本地震の収束と復旧復興を強く願うものである。

さて、地震による影響は、観光業や商工業にも波及している。熊本への観光客の減少は地域内の経済に大きな打撃を与えていると思われる。今後、マスコミを利用した効率的なキャンペーン等が求められる。

また、地震当初の自粛ムードから、今後、地域内の消費増を目指して「震災復興」を行わなければならない。その対策は。

【町長】 町だけでなく、杖立、わいたの組合、ツーリズム協会もPR活動を行っている。小国町と南小国町、阿蘇郡市全体などの取り組みも必要。自治体間では、北九州市や福岡市からも支援をいただいている。

閩平成25年、非常用の防災グッズを紹介し、町の取り組みを聞



防災グッズ

いたが、非常備品について、その後の取り組みは。【総務課長】 防災訓練や防災マップで紹介しているがまだまだ周知が必要と感じている。基本、自分の身は自分でと私は思っている。可能な限り「備えて」「憂う」ことのないようにしなければと思う。



農業振興、耕作放棄地に ついて

大塚 英博

【産業課長】集落営農組織や担い手などへの農地が集積できる展開の中で土地利用計画を考えている。

【産業課長】地籍調査が完了していないので正確な数値はわからない。閼町として土地の対策利用を計画し進めているか。

【産業課長】青年就農交付金制度や町独自の担い手支援給付金制度を設けている。

閼地域に密着した集会所の維持管理や改修について町として補助する考えは。

【町長】地域の方々が建設して維持管理もしているので現在はない。

閼移住・定住の促進を行うために宅地等の紹介をどのようにしているか。

【政策課長】役場とツーリズム協会、木魂館が連携して相談を受けている。



地域の公民館



耕作放棄地

閼空家・土地バンク登録を増やす考えは。

【政策課長】登録奨励金や契約奨励金などと改修の補助制度を設けている。新たな補助事業の新設は今後の課題だと考える。



震災での子ども達の ストレスケアは

穴見まち子

閼4月14日、16日の熊本地震により、2年半前に福岡から小国町が大好きで転入してきた家族は、小学3年生の子どもを連れて山口の方へ転出して行った。

現在、私の地元には、小学生以下の子ども達がいるが、熊本地震では、大変怖い体験をしストレスを抱えた子どももいると考える。小学生や保育園では、どのようなケアをしているか。

【教育長】2回の地震の後、小国町の被害は少なかった。授業再開後2日間で、5名の欠席者は出たが、ストレスを抱えている子どもはいなかった。

【保育園長】若干、落ち着かない子どもはいたので、保育士はスキンシップでのケアを心がけた。

閼国民健康保険税の税額を今回保留したが、その理由は。

【福祉課長】国民健康保険は、医療の高度化や被保険者の高齢化に伴い、財政状況としては非常に厳しい運営状況が続いている。今回は熊本地震の影響も考慮

し、税額の改正を見合わせた。今後は、色んな取り組みを医療費の削減に繋げて行きたいと考えている。



小国小・中学校



住民サービスの取り組みについて

時松 昭弘

【町長】以前から住民に対するサービス・職員の対応の仕方・接遇等、色々問い只されている。

この取り組みについて尋ねる。

【町長】接遇、電話対応、窓口業務、財政・職員の業務においては、法令に詳しくなければならぬ。状況を把握し適切に対応するよう会議の中で職員一人一人に至るまで日頃から指導をしている。専門的な知識の習得のために、今後研修を深めて行きたい。

【町長】自治法には、「地域における行政を自主的かつ総合的に実施の役割を広く担うもの」一つは住民サービス、二つには暮らしを守る、三つには福祉増進を図るとある。そこで、自治法の起源について尋ねる。

【町長】この場では分らない。

【町長】尋ねる。

【総務課長】法の原則で全体の奉仕者であり一部の奉仕者ではないと云うのが大原則。指導の立場として、挨拶、電話対応等の苦情もある。個別に指導している

が、徹底していない。

【副町長】憲法の第8章で日本国憲法のもとに地方自治法が制定された。

【町長】自治法の意識を持てば住民に対する言動も、苦情も減ると考える。

先の地震により、上田の広田水路の件で、地元から要望が上がったが対応が悪かった。田植え時期でもあり現状を考え対応するべき。

【町長】情報を共有して指導する。これを糧にして今後につなげていきたい。



小国町役場庁舎



小国町の防災検証と本年度の予算編成について

時松 唯一

【町長】防災検証はだれがどのように判断し発行しているのかを問う。

【総務課長】熊本県で判断の仕方について説明会が開催され、担当職員2名が参加した。受講した内容を基に、写真、現場を確認し発行している状況である。

【町長】指定避難場所、トイレ不足の対応、妊産婦・乳幼児の対応、外国人への対応、はどのような行われたかを問う。

【総務課長】今後不足が生じた場合仮設トイレの設置を検討している。妊産婦・乳幼児について問題点は上がってきていない。外国人対応については、避難場所担当職員へ、熊本県からの啓発ペーパーを配布し対応した。

【町長】地震防災マップの早急な内容の見直しの必要とその計画を問う。

【総務課長】熊本県の方針、様々な見解を受けた上で見直しを順次行っていく予定。今の時点ではまだ防災に関するマップ作成は予定していない。

【町長】地域住民と職員のコミュニケーションを図るために、地域担当職員を設けることを提案する。これにより職員の啓発、地域における問題点等の情報共有が図られ、防災にもつながってくる。と考える。

【町長】地域担当の職員を置くことについては内部で協議をさせて頂きたい。

【町長】本年度の予算編成において、大変厳しい限られた財源の中で、もう一度「優先順位」を整理し、今回の災害を皆で乗り越えていけるよう流用することが私たちの使命である。と考える。予算の検証をもう一度行い臨時議会を開催し練り直すことが必要と考える。町長の考えを問う。

【町長】考えには共感できる。ただ予算を組んでいる対象の地域や、対象の方々、そのようなことを総合的に考えて苦渋の決断をする部分もあると考える。9月議会、12月議会も気にしながら行っていく。



水と道

松本 明雄

【町長】生活する上で大事なものは水だと考える。

【町長】数年前に第二配水池計画とのご意見があった。内部では検討しているが、多額の予算が掛かるので、少ない費用で出来るよう今後も検討を続けたい。

【町長】以前にもミルクロードの霧対策について質問したが、今回の熊本地震において国道57号線が寸断され、小国町と市内を結ぶ主要道路はミルクロードとなった。

皆さんご存知の通り大霧の多い場所なので、町は熊本県に対して、中央線と両脇の白線の引き直しを強く要望すべきだ。

【町長】安全を考えると大事な部分であるので、引き続き要望していく。

【町長】小国町の観光にとっては国道212号線が生命線である、大分県と国へ更に強く要望し、ルート変更してでも抜本的な災害のない国道にすべきだ。



被災した国道212号線



水道水源地

【町長】国道212号線の重要さはご意見の通りだと思う。熱い思いで訴えていく。



災害に強い安心・安全なまちづくりを

北里 勝義

【町長】熊本地震は広域にわたり甚大な被害をもたらした。この震災を教訓に今後の防災対策に努めなければならぬ。そのためには、女性の視点、福祉の視点、高齢者の視点などあらゆる視点からの検証が大事であると思うが、どのように検証するか。また震災を踏まえて、町の災害危険箇所調査と災害対策について町の考えは。

【町長】刻々と状況が変わる中で課題も大きく出ている。今後、課長会の中で課題を洗い出し、各関係機関の専門的な考え方や助言を頂きながら取組みたい。また組織づくりも検討していく。

【総務課長】職員班編成による危険箇所点検を行っている。防災会議や行政部長会等で周知を図るとともに、早急な復旧に向けて県に要望していく。

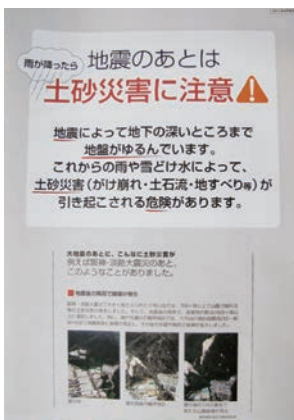
【町長】学校施設については、耐震補強工事を実施しているが、熊本地震では耐震基準を超えた地震が発生しているところもある。

専門的な調査や対策についての考えは。

【教委事務局長】目視調査は行っているが、今後十分な調査を行いながら、災害復旧事業等に取り組む。

【町長】「創造的復興」を目指している中で、町では復興と併せてどのようなまちづくりに取り組んでいくか、町長の思いは。

【町長】比較的災害の多い小国町にとつて、防災意識の向上を図りながら、町民とともに防災に努めなければならないと思っている。また原型復旧にとどまらず、長期的な観点からまちづくりに取り組み、スピード感を持って進めていく。



土砂災害チラシ



環境モデル都市計画、農地の現状、 上田牧野について

高村 祝次

【町長】環境モデル都市事業の一環で、チップボイラーの設置が予定されているが、材料の確保、人件費、灰の問題、場所の問題等課題が多々あると認識する。そこでこれから計画に上がっている岳の湯地域における地熱発電所事業の様々な保障について問う。また、売電ができるまでの期間を問う。

【政策課長】既存の資源が損なわれるのではないかとという地域住民の心配をくみ、町は最後まで開発事業者が責任をとるようサポート体制をとっていきたいと考えている。また事業として成り立つのは数年後と見越して動いていると把握している。

【町長】地熱をつかった発電事業以外の計画があればその内容について、また、そこで働く人材の確保をどのように考えているか。

【政策課長】発電事業に使用する蒸気とともに出てくる豊富な熱水を利用して、温水をつくりガラスハウスや乾燥施設を計画している。

【町長】人材については町の内外から幅広く募集したいと考える。

【町長】農家の方で田畑が農振地にかかっているため植林や売買することが困難となっている。また農振地がネックで太陽光を断念した企業はたくさんあると考える。農業委員会で見直しの計画を把握し農振地の見直し等の計画があるのかを問う。

【町長】県のほうでも条件の厳しい田畑については非農地化を進めていく動きとなってきた。現状を調査し、農地として有効利用できるものとしてないものを判断し進めていく方針である。

【町長】上田牧野問題の現状についてどのように把握されているのかを問う。

【町長】問題は終息したとは考えていない。相手先と連絡を密にとり、現在は議員同士の部分まで発展してきている。小国の条例に合うような方向へもっていけるよう努力をしていく。

全員協議会

平成28年6月1日

■6月1日(水)午後1時から、木魂館で全員協議会が開催され、執行部から、①熊本地震の被害状況報告②開発センターの今後についての報告 ③6月議会に提案予定の条例や予算についての報告がありました。

なお、熊本地震での被害を受けた開発センターは使用出来なくなりましたので、今回の全員協議会から議場は他の会場を移動しながらの議会となります。



木魂館での全員協議会

被災箇所視察

平成28年6月10日

■6月10日(金)午前9時から、熊本地震に伴う小国町の被災箇所を議員全員で視察しました。

主な視察場所は、被害の大きかった町道対岸線(4ヶ所)、町道切原切通線、杖立簡易水道水源地、黒淵農業集落排水処理施設、小国ウツデイ協同組合等です。



被災箇所視察

豪雨による被災状況報告 平成28年6月27日

■6月27日(月)午後1時30分から、小国町隣保館で小国町災害対策本部から豪雨による被害状況の報告を受けました。

19日から24日まで、6日間での累積雨量が577mmに達した豪雨により人的被害はなかったものの、住宅では床下浸水6件、一部損壊2件、床上浸水1件、崩土6件と道路・河川で約50件の被害が出ました。



対策本部から災害報告

平成28年第2回臨時会 平成28年7月25日

■7月25日(月)午前10時から森林保全センターで臨時議会が開催され、主に地震による災害復旧に係る補正予算が提案され全会一致で可決されました。

議員勉強会 平成28年7月25日

■7月25日(月)の臨時議会終了後に議員勉強会を開催しました。主な内容は、①議員の視察研修について ②豪雨による被災現場視察実施の有無について話し合いました。

小国町議会からのお知らせ

一部の議員の話から副町長の給与は全額国から支給されるとか、副町長の給与分位は国からもってくる等の誤った情報が町民の皆様伝わっております。

副町長の給与は全額町費からの支出になります。この紙面をお借りしまして、訂正させていただきます。

編集後記

熊本地震から三ヶ月が過ぎ、余震の数も減り少し落ち着いてきたかのように思えた矢先大雨による災害が発生しました。ここ数年稀に見るものでした。町もかなりの被害を受けました。

昨年同様雨の多い梅雨でしたがどうか梅雨明け宣言発表もあり、今から夏本番です。議場も震災を受け、今回は隣保館にて行なわれました。いつまで続くか未定ですが、広報活動は以前同様頑張っていきます。編集後記も今回で五回目です。新人広報委員も一年が過ぎ、少し慣れた感じですが、いつも事務局に頼りっぱなしです。今回の『議会だより』も特別なものはありませんが、皆さまのご意見、ご要望を賜り編集に広報委員一年間頑張っています。(熊谷 博行)

【発行責任者】

議長 渡邊 誠次

【広報委員会】

委員長	熊谷 博行
副委員長	穴見まち子
委員	松崎 俊一
委員	穴井 帝史